

発展練習問題 23-3

<解答>

直接労務費差異	14,360 円 (借方差異)
賃率差異	16,760 円 (借方差異)
時間差異	2,400 円 (貸方差異)
製造間接費差異	28,800 円 (借方差異)
予算差異	18,400 円 (借方差異)
能率差異	4,000 円 (貸方差異)
操業度差異	14,400 円 (借方差異)

【解説】

直接労務費の差異分析

	材料費	加工費
月初仕掛品	50	20
当月投入	<u>210</u>	<u>210</u>
計	260	230
月末仕掛品	<u>60</u>	<u>30</u>
完成品	<u><u>200</u></u>	<u><u>200</u></u>

標準賃率	1,200	標準作業時間	840
実際賃率	1,220	実際作業時間	838

直接労務費差異	$1,200 \times 840 - 1,220 \times 838 = -14,360$ 円 (借方差異)
賃率差異	$(1,200 - 1,220) \times 838 = -16,760$ 円 (借方差異)
時間差異	$(840 - 838) \times 1,200 = 2,400$ 円 (貸方差異)

製造間接費の差異

標準操業度	840	} -2×	変動費率	800	} 製造間接費 標準配賦率	能率差異	4,000
実際操業度	838		固定費率	1,200			
基準操業度	850	} -12×	固定費率	1,200		操業度差異	-14,400

製造間接費差異 $210 \times 4 \times 2,000 - 1,708,800 = -28,800$ (借方差異)

操業度差異 $(838 - 850) \times 1,200 = -14,400$ 円 (借方差異)

能率差異 $(840 - 838) \times 2,000 = 4,000$ 円 (貸方差異)

実際標準変動費	670,400
固定費	1,020,000
実際発生額	1,708,800
予算差異	-18,400

予算差異 $838 \times 800 + 1,020,000 - 1,708,800 = -18,400$ (借方差異)